

マネー&インベストメント

3月の決算期末を前に、株式相場が高配当銘柄に注目が集まっている。堅実な投資法として、1月から始まった少額投資非課税制度(NISA)で高配当株への長期投資を考える個人も多いようだ。配当を着実に得るコツと注意点をまとめた。

「NISAでは高配当銘柄を中心に買う」。投資歴5年の団体職員Aさん(64)はこう話す。課税口座では中長期で値上がりが見込める介護関連銘柄などを保有する。NISA口座では「非課税のメリットを手堅く得たい」と今月、キヤノンなど高配当の銘柄を購入した。

株主が定期的に利益の還元を受ける機会が配当だ。企業が決算をして法人税などを支払った残りの利益の一部を、株主に分配する。決算期末や中間期末に分配する普通配当のほか、記念配当もある。

「今は配当に着目した株式の長期投資を始める絶好のチャンス」と話すのは、日興アセットマネジメントのシニアマネージャーアナリストの妹尾園子氏。足元で日本株に対する先高観が強まっている上、日本企業の配当がここ数年増えているからだ。

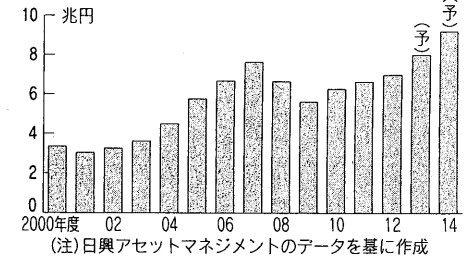
NISAに好適

妹尾氏は2013年度の上場企業の配当総額が過去最高だった07年度の7.6兆円を上回り、8兆円規模になると予想する。14年度も9.2兆円に増加すると見込む。事業効率化や業績の改善で手元資金が増加。これを株主に還元する動きが目立つという。

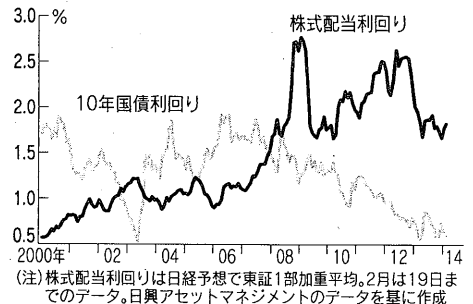
配当は債券の利息や預金金利

高配当株投資のツボ

A 上場企業の配当総額は過去最高に



B 株式配当利回りと10年国債利回り



C 高配当利回り銘柄ランキング

順位	銘柄	予想配当利回り	1株配当予想
1	あおぞら銀	4.81%	14円
2	松井	4.63	30円増配
3	イーザイ	3.88	
4	武田	3.76	180
5	大和	3.65	34
6	NTTドコモ	3.64	3030
7	伊藤忠	3.62	46
8	日電硝	3.58	16
9	住友商	3.57	47
10	第一三共	3.56	60
11	丸紅	3.51	25
12	日産自	3.3	30

(注)対象は日経225銘柄。2014年3月期の予想配当利回り、1株配当予想は2月20日時点の日経予想

利益出る体質かチエツク

などと比較することがある。予想配当金を株価で割ったものを「配当利回り」といい、東証1部の予想配当利回りは1.8%程度(2月19日時点)。0.6%程度の国債利回りより高い。配当利回りが高い企業なら、長期保有することで安定的な利益を得られる可能性がある。

ファイナンシャルプランナーの深野康彦氏も「NISA口座で高配当銘柄に投資するのは合理的」とみる。NISAで非課税になるのは、値上がり益と配当。だが株価は下がるともある。値下がりすれば非課税の恩恵は受けられない上、他の口座との損益通算で節税することもできない。その点、配当は確実に非課税のメリットを受けられるからだ。

では、どんなポイントに着目して、高配当銘柄を選ぶべきか。まず配当はその期の予想と過去の実績を見るのが第一と話すのは、大和証券シニアストラテジストの壁谷洋和氏。上場企業はその期の配当予想を決算短信などで公表している。業績が期初の予定を上回れば、配当を予想より多く出す会社もある。伊藤忠商事は2月に今期の業績見通しを上方修正し、配当予想も4円増やした。過去の実績は会社情報などで確認し、安定的に配当を出しているか確認しよう。

か。「まず配当はその期の予想と過去の実績を見るのが第一」と話すのは、大和証券シニアストラテジストの壁谷洋和氏。上場企業はその期の配当予想を決算短信などで公表している。業績が期初の予定を上回れば、配当を予想より多く出す会社もある。伊藤忠商事は2月に今期の業績見通しを上方修正し、配当予想も4円増やした。過去の実績は会社情報などで確認し、安定的に配当を出しているか確認しよう。

購入は3月26日まで
妹尾氏は「リーマン・ショックの影響を最も受けた08年度までさかのぼると業績の底がわかる。その後の業績の回復状況から、利益を出せる体質かも確認するとよい」と話す。さらに詳しく見ると、過去の決算資料から「本業で稼いだ現金を不営業キャッシュフローが安定的

にプラスになっているかをみて、配当原資の現金が稼げているか確認すべきだ(壁谷氏)。銘柄に見当がついたら、あとは権利確定日に株主名簿に名前が載っている必要がある。株主名簿の書き換えに時間がかかるため、権利確定日の3営業日前までに買っておくことが必要だ。3月末が権利確定日なら、今年3月26日までだ。

野村インベスター・リレーションズの林清隆常務は「配当や優待など株主還元が厚い企業の株価は、権利が得られる最終売買日の数カ月前から上昇するケースが多い」と指摘する。3月期決算の銘柄なら早めに購入した方がよさそうだ。

深野氏は「同じ銘柄で2単元以上を買うのもおすすめ」という。配当狙いの銘柄が値上がりして利益を確定しなくなっても、1単元だけ売り、残りの1単元を配当狙いで保有し続けることができるからだ。「0か100かの選択をできるだけ避けられるが、株式投資を続ける」と話す。

NISAで配当を非課税で受け取る場合、受け取り方を「株式数比例配分方式」にしておくことも確認したい。これは、国内上場株式の配当を証券口座で受け取る方法だ。配当は指定した銀行口座や企業が郵送する「配当金領収書」で受け取る方法もあるが、それでは非課税にならない。注意しよう。(川本和佳英)

伊藤忠商事に三菱商事、メガバンク。千葉県の会社員A男さん(56)が運用する銘柄の共通項は「本業も配当もしっかりしていること。この方針を4年続けた結果、投資額に対する配当の利回りは軒並み3%超。6月には数万円の配当が受け取れるという。銘柄選びの最初の条件は配当利回り2.5%超。その条件を満たす銘柄から過去に無配があったり、業績に安定性がなかったりする企業を除くという。業績悪化で株価が下がり、配当も減るダブルパンチを避けるためだ。また、株価が上昇しやすい権利確定日前には、あまり売買しないようにしているという。

利回り2.5%超から選ぶ